

会 議 録

(1)実施概要

会議名称	第11回泉大津市子ども・子育て会議
開催日時	平成31年2月25日(月)午前10時00分～午後12時00分
開催場所	泉大津市立高齢者保健福祉支援センター(ベルセンター)2階研修室
出席委員 (敬称略、順不同)	長瀬委員、久委員、大橋委員、阪上委員、田中(浩)委員、植野委員 佐嵩委員、田中(桃)委員、平委員、秦委員  (欠席) 川西委員、村田(あ)委員、内藤委員、村田(純)委員、納谷委員  全15名のうち、出席10名、欠席5名
事務局	川口健康福祉部長、丸山教育部長、藤原健康こども政策統括監 堀田子育て応援課長、里見こども育成課長、柏こども育成課長補佐 木村教育政策課長、濱辺スポーツ青少年課長、西村指導課長、寒福祉政策課長 深澤障がい福祉課長 子育て応援課：谷本、奥野、伊加井
会議次第	1. 開会 2. 会長挨拶 3. 案件 ①第二期いずみおおつ子ども未来プランの策定について ②泉大津市就学前施設再編基本計画(案)について ③その他 4. 閉会
会議資料	【配付資料】 資料1 第二期いずみおおつ子ども未来プランの策定について 資料2 第二期いずみおおつ子ども未来プラン策定業務スケジュール(案) 資料3 ニーズ調査概要(案) 資料4-1 泉大津市の次世代育成支援を進めるためのアンケート調査(就学前児) 資料4-2 平成25年(前回)ニーズ調査項目一覧【就学前児】 資料5-1 泉大津市の次世代育成支援を進めるためのアンケート調査(就学児) 資料5-2 平成25年(前回)ニーズ調査項目一覧【就学児】 資料6 ニーズ調査独自設問項目例 資料7 泉大津市就学前施設再編基本計画(案)
会議の公開／非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開(傍聴者数1名) <input type="checkbox"/> 非公開
会議録の作成方法	<input checked="" type="checkbox"/> 要点記録 <input type="checkbox"/> 全文記録
その他の必要事項	なし

(2)審議概要(意見要旨、審議経過、決定事項等)

	<p>1. 開会 2. 会長の挨拶 3. 案件 ①第二期いずみおおつ子ども未来プランの策定について ②泉大津市就学前施設再編基本計画（案）について ③その他 4. 閉会</p>
会長	◇事務局は案件①について説明してください。
事務局	●資料1～6に基づき、事務局から説明。
会長	◇案件①について、事務局から説明がありました。まずは、前半の策定についてやスケジュール、ニーズ調査の概要について、何かご質問はありますか。
副会長	◇次のアンケートの話ともかなり連動してくるが、ここ数年でも社会状況は変わり、保護者のライフスタイルの多様化もどんどん進んでいます。ついては、大きく2つの観点をしっかりとらえていただきたい。1つは子ども食堂など、市役所だけでは対応できないものがますます大きくなってきます。地域・社会に任せるのでもなく、市がどのような姿勢でマネジメント・コーディネートするか、「協働」の観点が重要になる。さらに、現行の未来プランはどちらかといえば「子どもへの支援」が多い。「保護者への支援」をより充実させていければと常に思っています。最近はず育て世代の社会活動が充実してきているので、「市民活動支援」「協働」という観点で、ぜひ取り上げていただきたい。
副会長	その次の話として、これはアンケートにも関わってくるが、どうしてもメジャーなライフスタイルにターゲットを当てがちになる。「子どもを預けて働く」のではなく「自分で起業して家庭内で育てながら働く」といった、まだまだ数は少ないが注目すべきライフスタイルがあるのではないかと思います。このようなライフスタイルを育てていくことで、子育て環境を変えていくという観点での設問もお願いしたい。
会長	◇ニーズ調査とも連動してきますので、調査の内容も含めてご意見いただきたいと思えます。市からは「子どもの貧困対策」に関わって独自設問項目例を出してもらってますので、ご意見をいただければと思えます。
委員	◇例えば里親であったり、様々な家庭環境にも合わせられるような質問も考えてもらえたらと思えます。
委員	◇前回の回収率が低く、せめて半数は回答いただきたいと思えますが、何か原因など分析されてるのでしょうか。
事務局	●回答しづらい、設問が分かりにくいといったことがあると思えます。現在、委託先の選定にあたり回収率を60%と設定して提案を受けているところではありますが、他市においても低くなっているとの情報も聞いています。表現をわかりやすくする、レイアウトを工夫するなど、回収率の向上策は検討していきたいと考えています。
会長	◇私も他市の状況を聞くと、就学前の小さなお子様をもつ家庭には項目が多い、難しい言葉が多く答えにくいといった検討がされており、答えたことを活かして市の施策になるということをしっかり訴えていくことが大事だろうという話が出ています。今の自分たちの思いをできるだけそのまま伝えていただくことで施策に反映していくという市の姿勢を見せていくことを検討していただければと思えます。
会長	他市の状況も50%前後くらいでしょうか。
事務局	●数字までは聞いておりませんが、前回よりもさらに低くなっているところも多いと聞いています。
副会長	◇今のところ紙の送付を考えていますか。

事務局 副会長	●はい。 ◇よく子育て世代で聞かれるのは、紙よりもスマホの方が答えやすいと言われる方が多いです。ネットで答えられるようにすると変わってくるのではという気がしますが。
事務局	●他市でそのような事例があるかどうかは調査できておりません。今回の調査に関しては、仕組みづくりや費用面でも難しいというのが正直なところです。子育て世代にとっては、ネットでの回答の方が有効であるということも考えられるので、今後検討はさせていただきます。
会長	◇他市でもされたところがあるとは聞いておりませんが、会議の中ではそういった意見が出ているとも聞いていますので、今回は時間的に難しいとしても、子育て世代の方がより答えやすい方法のひとつとして、今後の検討事項としていただければと思います。
副会長	◇価値観の世代間ギャップが出てきており、それが子育て層を苦しめているという部分もあるのではと思います。富田林市で子育て層がいきいきと活躍するためのシンポジウムを開いたが、アンケートの中で70代の女性の声として「子育ては親が責任をもってやるべき」とあった。これは、従来型の古い考え方だと思います。自分たちがやってきた子育ての姿がひとつのモデルになっていて、今の若い方々のライフスタイルを否定してしまうような声があるのかなと。新しいライフスタイルを尊重することによって、子育て層ももっといきいきとできるんじゃないかと思います。そのような子育て層以外の周りの方々の声をしっかりと把握できたらと思うので、余裕があれば地域社会側の声を拾うようなインタビュー、アンケートもお願いしたい。
委員	◇子育て中のお母さんが書くものは保育所からの書類など他にもいろいろあり、子どもが寝た後やっと空いた時間でこのアンケートを書くかということ、スマホなら見るが、紙を書くというのは負担が大きい。働くお母さんが増える中で、アンケートなども形を変えていかないと回収率ももっと低くなっていくのではと思います。
委員	◇就学児童向けのアンケート内容で、子ども会に入らない方も多くなっており、入らない原因を調べてもらっても、子ども会の加入促進に参考となるのではと思います。子ども会は地域の協働にとっては良い団体だと思いますので。
会長	◇「子どもの貧困対策」は非常に重要だと思いますが、誤解もあるところだと思います。経済的に困窮していることへの理解はかなり違うのでは。例えば、この設問項目例の3番目は大事なかなと思います。お金が理由で子どもに適切な経験をさせることが難しいといった、金額の大きさではなく「暮らしぶり」の部分で問えるところは大事な項目だと思います。
副会長	◇検討するベースになっている価値観とかライフスタイルが従来型を想定している。お金があってもできてないという家庭もあり、そこをどういう形で私たちが共有できているかというところがアンケートにも影響してくるので、しっかりと議論しておいた方が良さそう。先ほど子ども会の話がありましたけど、今はいろんなライフスタイルが出てきており親の求めるものも変わってきている。今の価値観や人生観といったものも重要になってくるので、そこをしっかりと議論してアンケートをした方が良さそうだと思います。
委員	◇いじめ、虐待などの問題も根底には貧困の問題があるんじゃないかと思います。アンケートの中でどこまでそれが出てくるのかと疑問があります。1年間の収入など、答えるのに負担がある話かなと思います。虐待、貧困、特定妊婦などへの施策は市に義務付けられていますので、プランに盛り込んでいくには社会的弱者と言われるような人についてアンケート以外にも改めて場をもつべきかなとも思います。
委員	◇親の孤立が問題だと思います。私の父母の話聞いても、昔もすごく貧困ですけど、みんなが貧困なので問題にならなかった。貧困からくる孤立もあり、親の孤立具合がわかる質問があればいいんじゃないかと思います。
会長	◇本当の貧困は「関係の貧困」だと言う方もいらっしゃいます。親が誰ともつながっていな

委員 事務局	<p>い結果、子どもが地域の中でつながれていない。経済的な部分、文化的な部分、関係の貧困を含むようなかたちで問うようなものが良いと思います。</p> <p>◇同じ状態で常時でなくても、就学時の準備など子どもたちの育ちの節目において経済的に不可能なものも問えたらよいのかなと思います。</p> <p>◇この独自項目は何を調査するためのものですか、教えてください。</p> <p>●資料 4-1、5-1 の中に独自設問項目を盛り込みます。調査自体の目的としては、国・府の定める子育て支援事業の見込量を算出するのがひとつです。さらに、もうひとつの目的として、市の子育て環境に関わる課題を抽出し、市としてどういった手立てを打っていきべきかを見定めるためのものとなります。この独自設問項目だけではなく、もともとの調査項目にも貧困対策に関わる設問もありますので、そういったところと掛け合わせて調査していくということでご理解いただければと思います。</p>
会長	<p>◇前回の調査ではあまりそういった観点がなかったので、今回はその観点も意識してということですね。ベースとなるものは前回どおりですが、改めてそこに家庭的・経済的に様々な事情を抱えるお子さんのニーズをもう少し明確にとりたいということで、今回追加で出しているということですね。</p>
委員	<p>◇子ども食堂についても入れていただいて、どういう目的で来るのか、どんな子ども食堂なら利用するか、どんな親子同士の交流があれば行きたいかなど把握できると、私たちの今後の活動にも役立つと思います。</p>
委員	<p>◇前回調査の平成 25 年から 5 年間でかなり変わってきていると思います。放課後デイサービスなども普及してきている。発達障がい児をもつ親として仲よし学級には預けにくい現状があるので、そういった目線も検討していただきたいです。</p>
委員	<p>◇園でアンケート調査をするときでも、回収率は 50%くらいになってしまいます。この調査が本当に意味のあるものにするためにも、この 5 年間、次の 5 年間でも大きく社会が変わっていく中で、今までと違う観点も持たないといけないかなと思います。子どもの支援は充実してきましたが、親支援について親がどんな気持ちなのかは現場としても知りたいところです。</p>
委員	<p>◇保育料の無償化について保護者からの問い合わせもよくあります。お金の使い方など、無償化による影響もかなり出てくるんじゃないか。そういったところも調査してもいいのかなと思います。</p>
副会長	<p>◇大学院生の書いた論文で、進学のために勉強させることを精神的虐待と捉えて調査した。言いすぎなところもあると思うんですが、目の付け所は面白い。親の価値観を押し付けているのであり、それを支えているのは過去の社会の価値観。それが子どもに精神的なつらい思いをさせており虐待にあたる。こういうストーリーなんです。一方で、大阪から徳島県上勝町に移住された方と話をしたんですが、大阪から移住すると不便なことがいっぱいありますよねと質問したんです。すると、自分の価値観や暮らし方を変えることによって不便が不便じゃなくなるということに気付いたと言われました。つまり、田舎には進学塾なんてない。良い高校、良い大学に行かせることが本当に子どもにとって良いことなのか。都会では夜遅くに子どもを塾に通わせて親との時間がほとんどない。ここではゆったりと親との時間が過ごせる。ひよっとするとこっちの方が子どもにとっては良いんじゃないかと思うと、進学塾があるかどうかは不便かどうかとは関係ないですねとおっしゃいました。自分の価値観をどう転換できるかによって物事の見方は変わってくる。物事の見方を押し付けてしまっている社会を変えないといけない。社会全体の考え方を変えていけるような働きかけ、そういう観点がないと、一方の視点だけで見ちゃうとなかなか解決できない状況になっている。進学を強いていることを虐待と考える視点もユニークなので、そうすると虐待とはどういうこととどこから起こっているのか、また別の角度で見れるのか</p>



副会長	<p>ていく基本的な方針を定めるのが目的です。ご指摘のとおりで、標題にも「教育・保育」と入れるべきか検討しましたが、長くなりわかりにくいのもあってこの標題にさせていただきます。内容としては、「教育・保育」に関するものとなっています。</p> <p>◇「子育て支援施設」は今後ますます充実させていただきたいので、「充実します」とこの計画以外のどこかで載っていれば安心なんですけど、そこが抜け落ちてしまっていると困ったなと感じます。総合的な子育て支援をワンストップで行う施設など、新たなニーズに基づく施設もこれから充実させていただきたいと思いますので、所管で書いておかないと、公共施設全体の再編を考える方はできるだけ減らすという方向にもっていきかねないので、どこでそれが言えるんでしょうかということなんです。</p>
事務局	<p>●今回の基本計画は「就学前教育・保育施設」についての方針になるので、ここに入れるのは流れとしておかしくなるのかなと思います。おっしゃるように「子育て支援」は今後大切な分野になってきますので、ハコモノは別として内容の充実については、「子ども未来プラン」の中にも入れていきたいと思います。</p>
副会長	<p>◇公共施設の再編を考えていくと、どうしても余剰施設が出てきます。余剰施設に位置付けられると、売却するとかそういう話になってしまう。新たな機能が必要となったとき、今までの機能で要らないと空いた施設にそれを入れていくという姿勢が必要だと思っています。そのためには、再編計画の一環としてどこかに「これからはますます必要なんだ」と強調することができないでしょうか。どこで書くのがよりアピールできるのか、その戦略も含めて少し考えていただきたいなというのが願いです。</p>
会長	<p>◇これまで「就学前教育・保育施設」だったその機能を「子育て支援機能」の方へと移行していくという意味も含めた有効活用ということですね。</p>
事務局	<p>●資料の 20 ページに「地域の実情に配慮しながら、施設の有効活用も含め検討していきます。」とは記載させていただいています。</p>
副会長	<p>◇この 1・2 行だけでアピールできますか。おっしゃるようにここに書くのは違うとも思いますし、じゃあ、どこに書けば一番効果がありますかということを考えてほしいというお願いなんです。また事務局の方で考えていただければと思います。</p>
会長	<p>◇趣旨は理解できましたので、また事務局の方で検討いただくということで、委員の皆様もご了解ください。</p>
委員	<p>◇現在の待機児童の数を教えてください。</p>
事務局	<p>●12月1日現在ですが、55人となっています。</p>
委員	<p>◇子どもの数は減っているのに待機児童が増えるのは、お母さんが働く時代になったのもありますが、先生が不足しているのもあると思います。お母さんたちにも、先生の入替わりが激しいと不安だと聞きます。公立、私立など園によってお母さんたちが求めるものは大幅に違います。いろんなニーズがあるけど、泉大津は選べる環境で充実していると思います。民間、公立それぞれ良さがあって、選べる環境をこれからも作ってほしいなと思います。その中で、先生たちが働きやすい場を作っていけると、子どもたちも守れるまちになっていくんじゃないかなと思ってますのでよろしくお願いします。</p>
会長 事務局	<p>◇それでは案件③に移りますが、「その他」ということで事務局から何かありますか。</p> <p>●冒頭申し上げたとおり、平成 31 年度は計画策定の年になり、年 4 回の会議を予定しております。また、会議以外のタイミングでも、委員の皆様には様々な資料を送付しご確認いただくといったケースも出てこようかと思っておりますので、ご協力いただきますようお願いいたします。</p> <p>以上</p>